

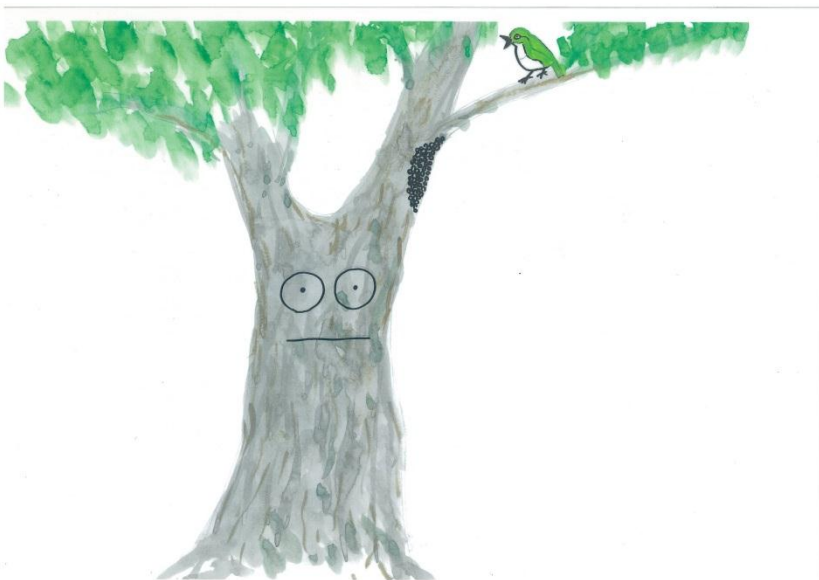


コナラくん  
さびしく  
ないの？



ひゅー、ひゅーと冷たい風の吹く日、コナラ君は枝をゆさゆさ震わせながら、遠い祖先のことを思っていました。

コナラ君の遠い遠い祖先は、地球上が凍るような氷河期にその寒さと乾燥に耐えて生き残ったがんばり屋だったのです。「きっと、もっともっと寒かったんだろうなあ」



少しずつ、暖かい風が吹いてきた頃、メジロがやってきて、楽しそうに枝と枝の間を飛び回り、コナラ君に言いました。

「コナラ君、あなたの小枝、大好きよ。私はこれから友達とあちこちに行くのよ。コナラ君はじっとしていて淋しくないの？」コナラ君はびっくりして答えられませんでした。そういうことを考えたことがなかったからです。



もう少し暖かくなると、ヤマユガの卵から幼虫がかえり、おいしそうにむしゃむしゃとコナラの葉っぱを食べ始めました。そして元気いっぱい歌い始めました。

だーいすきさ  
だーいすきさ  
コナラの葉っぱ  
だーいすきさ！



その歌声を聞いてニホンアマガエルがやってきて、ヤマムガの幼虫をぺろりぺろりと食べました。シジュウカラも飛んできて、おいしそうについばみました。そしてアマガエルもシジュウカラも楽しそうに歌いました。

だーいすきさ  
 だいすきさ  
 コナラのごちそう  
 だいすきさ！

アマガエルがコナラ君に手を見せながら、言いました。

「コナラ君、ありがとう！  
 僕は手に吸盤があるから、高いところにも登れる。君はじっとして淋しくないの？」



コナラはにっこりして言いました。「いや、ここをみてごらん！」

そこには樹液がいっぱいあって、たくさんの虫が蜜を吸っていました。

(ここで子供たちに聞く)

「何がいる？」

カブトムシ！ クワガタ！  
 スズメバチ！ ヒカゲチョウ！

そして虫たちはおいしい蜜にまるで酔っ払ったみたいに上機嫌で歌い出しました。

だーいすききさ  
 だいすきさ  
 コナラの蜜は  
 だいすきさ！



そこに蛇がスルスルっと音もなくやってきて、カエルたちを丸飲みにしました。

「ああ、うまい！」蛇は舌なめずりをしてから高らかに歌いました。

だーいすきさ

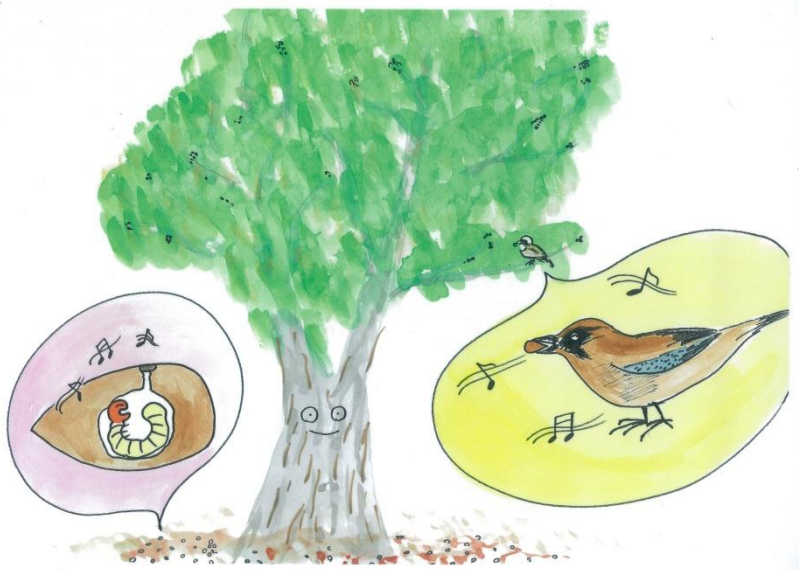
だいすきさ

コナラのレストラン

だいすきさ！



すると、高い樹から様子を見ていたサシバがスーっと飛んできて、蛇をさっとつかむと飛んで行ってしまいました。サシバは蛇が大好きでしたが、えびりんぼうなので、歌いたいのを我慢して「コナラ君、ありがとうございますよ！うまかったぜ！」と低い声で言いました。



秋になって、コナラ君にはたくさんのだんぐりが出来ました。カケスがだんぐりを見つけて大喜び1

「わあー、おいしそう1」そして木の上で、しゃがれた声で歌いました。

だーいすきさ

だいすきさ

コナラのだんぐり

だいすきさ！

そして木の下では……。  
だんぐりの中でコナラシギゾウムシが一生懸命もぐもぐとだんぐりの中身を食べていました。だんぐりはおいしくて、栄養満点で体にいいのです。コナラシギゾウムシはうれしくて心を込めて精いっぱい大きい声で歌いました。でもやっぱり小さいので……。

(声をひそめて) ほらっ！  
耳をすませてごらん！ 聞こえる？

だーいすきさ

だいすきさ

コナラのだんぐり

だいすきさ！

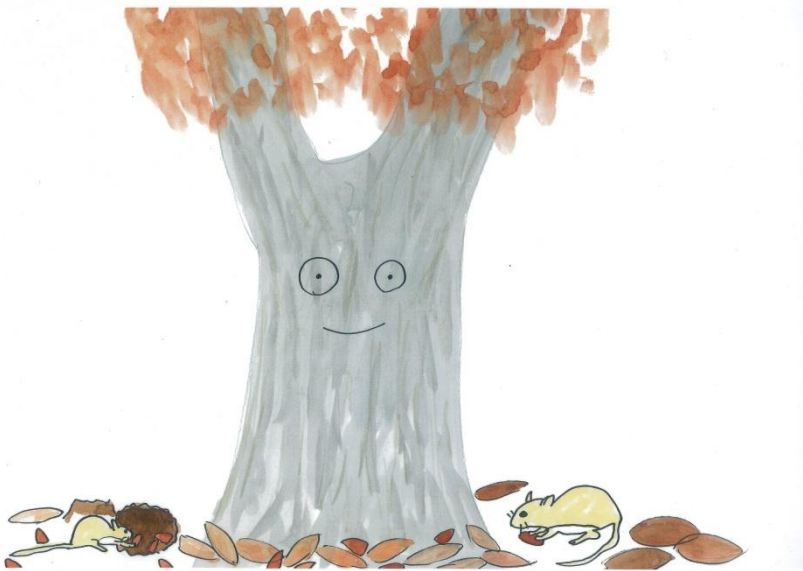


コナラの木の下にお爺さんと子どもがやってきました。「わあー。どんぐりだ！ どんぐりだ！」

子どもは大喜びでどんぐりをひろいました。

「そうさなあ、爺ちゃんも子どものころコマにしてあそんだもんさ。コナラは昔から人間ととても仲良しの木なんだよ。昔々、どんぐりは人間にとっても大事な食べ物だったしね。」と、お爺さんは言いました。子ども達に質問「コナラは人間にとって、食料だけじゃないよね？ ほかにどんなことに利用した？」

薪や炭(他の木より火持ちがいい)、葉っぱは堆肥になるよ。



そこにこしょこしょとネズミがやってきて、どんぐりをひろい始めました。冬の間の大変な食糧なのです。

おいしそうな立派なのを拾っては、地面に埋めています。ネズミは「ああ、これでひと安心、冬の間、子ども達にも十分あげられるわ」と幸せそうに歌い始めました。

だーいすきよ  
だーいすきよ  
コナラのどんぐり  
だーいすきよ！



だけどね！ネズミさんはあんまり大切に、ていねいに、たくさん埋めてしまうので、毎年、忘れてしまうのです。わかる？ほらっ！こことか　こことか・・・。

だからきっと春にはコナラの芽がでてくるでしょう。その時、土の中の菌たちはどんぐりの根が水を吸いやすいように手伝ってくれるでしょう。コナラ君はにっこりして言いました。

「みんなみんな、有難う！ぼくはここにじっとしているけどちっとも淋しくないよ。ぼくはここで命をつないでいくんだ。みんなといっしょにね。みんなのおかげでね。」

もうコナラの枝には、来年の春のためにヤマユガの卵が産みつけられているのかしら？

（子ども達に聞く　見つけた？　すごいね！　よく見つけられたね！　だいじにそっとしとこうね！

おしまい。しゃんしゃん。